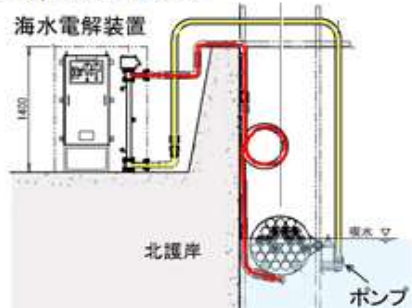


第4回付着生物対策技術検討委員会(3月24日)の主な議論

- 効果確認を行った4案は、すべて付着抑制効果あり
- 海水電解装置についてはコストに課題あり
- 別途実験により、被覆カバー案(全周)は、被覆状態でも約60%(被覆カバー無の場合は70%)の低減効果があることを確認
- 海水電解装置案、被覆カバー案(全周)、吊上げ案については定期的な清掃が必要
- 石積み案は既設捨石マウンドが設置されている南東護岸への適用が妥当
- 適用可能な各対策について、競技団体と協議を開始

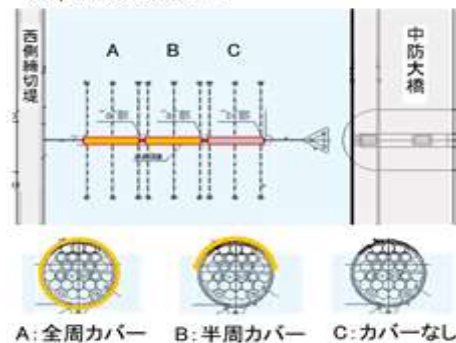
①海水電解装置案

- ・電気分解によって発生する次亜塩素酸ナトリウムにより、貝付着を抑制
- ・水位に追随する



②被覆カバー案(全周)

- ・カバーで稚貝付着、日当りを抑制
- ・水位に追随する



③吊り上げ案

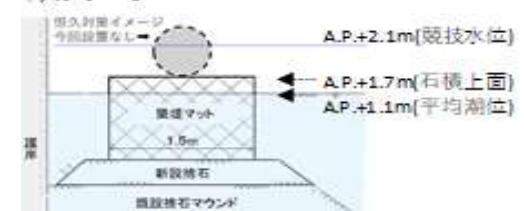
- ・定期的にワイヤーで吊り上げ干出
- ・ワイヤーの付外しが可能

	水中設置	干出
ア	2週間	1週間
イ	3週間	1週間
ウ	4週間	1週間



④石積み案

- ・消波装置を石積みで支える(構造的に強固)⇒消波装置は競技水位時にのみ機能。競技水位以下では石積みに消波効果を期待
- ・石積み上の消波装置で貝は大きく成長しない



競技団体（日本カヌー連盟、日本ボート協会）との協議

- 各対策案に対する各競技団体の意見は以下のとおり（海水電解装置案についてはコストを勘案し省略）
 なお、競技団体は当初と同じ状態の消波装置の設置を希望

議題	日本カヌー連盟	日本ボート協会
被覆カバー案(全周)について	<ul style="list-style-type: none"> ・国内大会は、被覆状態で開催 ・令和5年実施予定のアジア選手権などの国際大会においても被覆状態で開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内大会は、被覆状態で開催 ・大規模なIF主催の国際大会については、被覆状態での開催を都と協力してIFと調整
吊り上げ案について	<ul style="list-style-type: none"> ・大会開催時に消波機能があれば問題ないが、吊り上げ案より被覆カバー案の方がメリットがあると考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なし
石積み案について (南東のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なし
中央の消波装置について	<ul style="list-style-type: none"> ・中央の消波装置がなければ、大会招致が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央の消波装置は必須
南側の消波装置について	<ul style="list-style-type: none"> ・中央の消波装置が設置されれば、南側はなくてもよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央の消波装置が設置されれば、南側はなくてもよいが、競技上の支障が確認された場合は、再協議

コスト比較

- 各対策案に要する費用は下表のとおり
- 北・中央に関しては、被覆カバー案(全周)が優位

対策案		① 海水電解装置案	② 被覆カバー案 (全周)	③ 吊り上げ案 (4週ごとに1週間干出)	④ 石積み案 (高耐久性築堤マット)
特 徴		・潮位に追随し、常時、消波機能を発揮 ・電力消費や部品交換等、維持管理費高	・潮位に追随し、常時一定の消波機能を発揮 ・被覆状態では消波機能低下(約70→約60%)	・干出時以外は潮位に追随し消波機能を発揮	・低水位の場合も石積みが一定の消波機能を発揮
北	年間費用	約 0.6 億円/年	約 0.2 億円/年	約 0.4 億円/年	約 1.7億円/年
	評価	× (3.0)	○ (1.0)	△ (2.0)	× (8.5)
中央	年間費用	約 0.5 億円/年		約5.6億円/年	
	評価	○ (1.0)		× (11.2)	

()は最もコストが安価な案を1とした時の倍率
年間費用はイニシャルコストにランニングコストを加え、平準化したもの

付着対策(案)について

- 「北・中央」は、被覆カバー案(全周)を採用
- 「南」は当面の間、設置しない

